令和５年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較
「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

三者の比較
R5 生徒・保護者・教員間の

質　問　項　目	5年度調査			4年度調査			生徒－保護者	生徒－教員	保護者－教員
	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員			
	斜体・ゴシック体=65%未満 *斜体*＝75%未満 下線部＝90%以上						***斜体・ゴシック体=±20以上の差*** *斜体* ＝±15以上の差		
1 教育目標の周知	81%	82%	89%	79%	80%	87%	−2%	−8%	−6%
2 わかりやすい授業の実施	84%	79%	94%	82%	75%	92%	5%	-10%	*-15%*
3 学習指導の徹底	76%		89%	76%		92%		-12%	
4 家庭学習・課題の点検	80%	*68%*	89%	77%	*67%*	90%	13%	−9%	***-21%***
5 応用力のつく授業の実践	*74%*		*67%*	*74%*		*74%*		8%	
6 生活のきまりやマナーの遵守	*73%*	87%	81%	83%	87%	90%	−14%	−8%	7%
7 生徒会活動や部活動の活発さ	95%	92%	94%	94%	88%	97%	3%	0%	−2%
8 勉強と部活動の両立	82%	79%	92%	81%	78%	90%	3%	−10%	−13%
9 生徒への安心安全の支援	87%	85%	100%	86%	80%	100%	2%	−13%	−15%
10 登下校時等の安全指導	88%	82%	94%	85%	83%	100%	6%	−6%	−12%
11 希望進路の実現	90%	82%	97%	87%	79%	97%	8%	−7%	−15%
12 卒業後を考えた指導	90%	79%	94%	87%	76%	95%	11%	−4%	*-15%*
13 保護者と連携した進路指導	85%	*72%*	97%	80%	*69%*	100%	13%	-12%	***-26%***
14 二高に入学して「良かった」	79%	89%		*74%*	90%		−10%		
15 安全・清潔な学習環境の保持	95%	93%	100%	93%	93%	100%	2%	−5%	−7%
16 生徒の相談への丁寧な対応	82%	80%	100%	83%	78%	100%	1%	*-18%*	*-20%*
17 生徒の居場所づくり	81%	83%	100%	84%	81%	100%	−2%	*-19%*	*-17%*
18 保護者と連携したPTA活動		76%	97%		*68%*	100%			***-21%***
19 地域への貢献	82%	85%	81%	83%	83%	92%	−2%	2%	4%
20 学校徴収金の額		91%	97%		93%	100%			−6%
21 特色あるコース選択	91%			90%					
22 法令遵守			100%			100%			

（注1）各項目をa～dの4段階で評価し、a「大いにそう思う」とb「そう思う」を「肯定的な評価」、c「あまり思わない」とd「全く思わない」を「否定的な評価」としている。

【分析１】　全体的な傾向について

肯定的評価で75%以上の項目が多い(生徒17/19 保護者16/18 教員19/20)。生徒評価では15項目で80%を超えた。肯定的評価で65%未満の項目はない。最も肯定的な評価が低い項目は、項目5「応用力のつく授業の実践」(教員67%)である。保護者の評価は、昨年と比較すると、18項目中13項目でポイントが増加し、3項目で減少した。減少幅はそれぞれ2ポイント以内なので、全体として改善傾向にある。

【分析２】　評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」(生徒95% 保護者92% 教員94%)　今年度も三者から高い評価を得た。生徒・保護者の評価では1位である。コロナが5類に引き下げられ、本校の教育活動も徐々にコロナ前に戻ってきたことが要因と考えられる。

「15 安全・清潔な学習環境の保持」(生徒95% 保護者93% 教員100%)　今年度も生徒と保護者から高い評価を得た。普段の清掃をはじめ、修繕箇所への速やかな対応を継続してきたためと考えられる。

「20 学校徴収金の額」(保護者91% 教員97%)　適正な金額ととらえていただいたと考えられる。

【分析３】　評価が低かった項目、評価が分かれた項目について　【改善策等】

「4 家庭学習・課題の点検」(生徒80% 保護者68% 教員89%)　ポイントを見ると、三者の評価は昨年度とほぼ同水準である。保護者評価ではワーストで、保護者は生徒や教員ほど家庭学習の質や量、あるいは課題点検の状況に満足していないことが分かる。	良き学習習慣作りのため、保護者の理解を得ながら指導を継続していく。また、進路目標の達成に向けた家庭学習の必要性を生徒に自覚させ、モチベーションを高める。
「5 応用力のつく授業の実践」(生徒74% 教員67%)　生徒評価は昨年まで6年連続で最下位、今年度はワースト2位、教員評価は最下位の項目である。今年度は、1年生79%、2年生70%、3年生74%と、2年生が相対的に低い結果を示している。一方、生徒と教員との比較では7ポイントの開きがある。また、昨年度と今年度の生徒の評価はほぼ変わらないにもかかわらず、教員評価が7ポイント減少している。	個々の教員が生徒の理解度を丁寧に把握することで日々の授業改善と工夫を行い、基礎基本の定着のみならず応用分野の指導にも力を入れていく。また、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す、個別最適な学びの実現を目指していく。
「6 生活のきまりやマナーの遵守」(生徒73% 保護者87% 教員81%)保護者と生徒・教員とで評価が分かれた項目である。生徒評価は、昨年度比で10ポイント減少し、ワースト項目になった。学年別で見ると、1年生82%、2年生63%、3年生73%となっており、2年生の評価が際立って低い。自分に対しての評価なのか、他の生徒についてなのかは検証していかなければならない。	高校生活は社会に出る前の準備段階であると共に、高校生も社会の一員であるということを生徒に意識させる必要がある。社会のきまりやマナーを守ることは、社会人としてあたりまえのことであることを学校生活を通じて認識させる。
「13 保護者と連携した進路指導」(生徒85% 保護者72% 教員97%)三者で評価の分かれた項目である。保護者の評価が低いのは、保護者が学校からの進学情報提供や教員との連携強化、指導法等についての希望が満たされていないことが一因であると考えられる。教員が思うほど保護者は満足していない現状を認識し、さらに丁寧な進路指導を行うことが必要である。	進路学習会への保護者の参加率向上、時宜を得た進路情報提供について、更に工夫を検討する。保護者の希望を丁寧に聞き取ったうえで、保護者との連絡を密にしながら意思疎通を促進する。
「18 PTA活動における保護者との交流・対話」保護者の評価は項目別に比較すると低い数値ではあるが、昨年度と比較すると8ポイント増加しており、コロナ5類移行の影響が現れたものと考えられる。しかし、保護者と教員間の評価では21ポイントの開きがあるので、PTA活動に対する両者の意識には大きな隔たりがあることがわかる。	今後は更にコロナ禍以前の活動に戻っていくことが予想されるため、生徒・保護者・教員の三者が一体化して行えるようなPTA活動の在り方を模索していく。